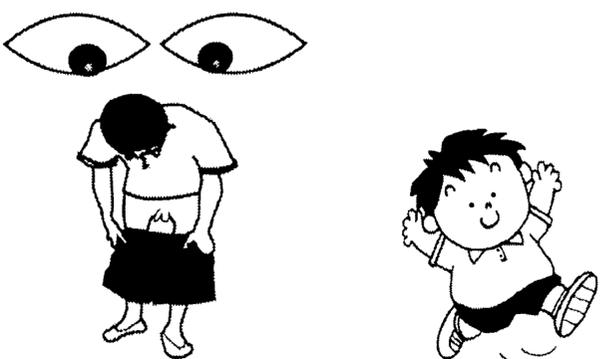


「バカやパンツぬいだー！」

つぎは、体育のじゅ業です。男の子は自分たちの教室のとなりの生活室で着がえます。みんなさっさと着がえ始めました。でも、かずおくんだけは、なかなかうまく着がえができません。そのうちかずおくんは、ズボンといっしょにパンツまで下ろしてしまいました。横にいた先生が

「かずお、パンツまでぬがなくていいげんよ。」

とやさしくかずおくんに言いました。かずおくんは「うん。」と言つてつなずくと、パンツを上げ着がえをつづけました。男の子はみんな、先生とかずおくんとのやりとりをだまって見ていました。



体育のじゅ業が終わり、また生活室で着がえを始めました。ひろくんは

「こんどもまたかずおはパンツを下ろすかもしれない。」

そう思い、かずおくんから目をはずさず、じつと見ていました。

いよいよかずおくんの手が短パンにかかりました。かずおくんはひろくんながそんな気持ちで見ているとも知らず、今度もまた短パンといっしょにパンツも下ろしてしまいました。

ひろくんは

「かずお、バカや、パンツぬいだー！」

と大きな声でさげび、わらいながら教室の方に向かって飛び出していきました。まわりにいた男の子たちは、そのようすをだまって見ていました。

じゅ業が始まって、かずおくんはずつとじつむいたままでした。

「バカや、パンツぬいだ！」（小学校中学年むけ）

A 教材設定の意図

学級で差別的なできごとがあっても、教師が一方的に注意したり、心がけとして善悪の判断を教えるだけで終わるような場面をときどき見かけます。しかし、それで終わっては人の心の痛みに迫ったり、自分の問題として差別的な出来事に立ち向かうことはできません。

差別的に見られている子は、自分の気持ちを誰にも受け止めてもらえず、悶々としています。そして、自分自身を肯定的に見ることができず、次第に元気をなくしていきます。

そんな思いを周りの子が自分自身の問題として受け止め、差別する側にいる自分の立つ位置を問い返していくことをくり返すことによつて、差別する側と差別される側という関係から、互いの違いを認め合う関係に変わっていきます。そして、次第につらい思いをしている子も「自分もいていいんだ」と思えるようになり、学級に居場所ができていくのです。

弱さ、不安、悩みなどを含めてありのままの自分を出し合い、受け止め合う関係、そんな子どもたちのつながりができてこそ、一人ひとりの子が安心して学校生活を送れるのです。

この教材を通して互いの失敗やばかにされたときの思いを出し合い、そのときどきの自分の立つ位置を振り返ってほしいと思います。そして、互いの思いを受け止め合う関係に向かつて進んでいってほしいと願っています。

B 教材の解説

本教材は一年生の学級でのできごとをもとにしています。

かずおくんは、体育の着替えのときにズボンといっしょにパンツまで脱いでしまいます。担任の先生がやさしく教えますが、

日頃からかずおくんを見下しているひろとくんは、「またかずおはパンツを脱ぐかもしれない」と考え、それをバカにする機会を窺います。そうとは知らず、かずおくんはまたパンツを脱いでしまいます。ひろとくんはこのときとばかりに「かずお、バカや、パンツぬいだ！」と大声で叫びながら、みんなに知らせに教室に向かいます。それを周りの子はただ黙って見ているだけです。

この一つのできごとの中に、このときの学級の人間関係のありようが見えます。直接ばかにしたひろとくんだけでなく、それを黙認した周りの男の子の中にも、「かずおはバカにされても仕方がない子」という意識があつたのではないのでしょうか。もつといえば、ひろとくんが大声でみんなに知らせに行つたということは、学級の中にそれを許す土壌、即ち、かずおくんを下とみる雰囲気があつたということではではないでしょうか。かずおくんの痛みを受け止めるということは、直接差別的な言動をしたひろとくんだけでなく、それを許した周りの子も問われなければならぬということなのです。

C 指導上の留意点

・クラスで友だちからバカにされて、元気をなくしている子がいれば、その子が自分の思いを綴ったり、話したりできるように、援助する。

D 参考

・第四次県教研 障害児教育分科会報告

「ともに育ち合う一年二組の子ども達」

中田省己（野々市町立御園小学校・当時）

・挿し絵 倉元豊秋（根上町立浜小学校）

E 授業の展開例

教師の基本発問・助言

児童の活動・指導の実際

1 導入

① これまでに、みんなに笑われるような失敗をしたことはありませんか。

2 展開

② 「バカや、パンツぬいだ！」を読みましよう。

③ かずおくんは、どんな子だと思いますか。

④ ひろとくんは、なぜかずおくんの着替えの様子をじっと見ていたのでしょうか。

⑤ ひろとくんに「かずお、バカや！パンツぬいだ！」と笑われたとき、かずおくんはどんな気持ちでしたでしょうか。

⑥ 周りにいた男の子たちはどんなことを思っていたでしょうか。また、自分がその場にいたらどうしたと思いますか。

⑦ 教室にもどってもうつむいたままのかずおくんは、みんなにどうしてほしいと思っていたのでしょうか。

3 まとめ

⑧ 私たちの身の周りにも、失敗ををわらったり、人をバカにしたようなできごとはありませんでしたか。そのときの様子や気持ちを話してみましよう。

① 教師の失敗談を話し、児童が気楽に失敗を話せるような雰囲気をつくる。

② 一人ひとり読んだあと、指名読みをする。場面がイメージ化できないときは教材の解説を参考に補足する。

③ かずおくんがみんなより時間がかかること、言われてもみんなと同じようにできないことなど、児童の自然な思いを自由に発言させる。

④ かずおくんの「失敗」を見つけてみんなではかにしてやろうというひろとくんの意図を押さえる。

⑤ かずおくんの身になって、かずおくんの痛みに迫らせる。ひろと君の言葉がかずおくんを悲しくつらい気持ちにさせたことを知る。

⑥ ひろとくんと同じように思っていた子、二度もパンツを下げただから言われても仕方ないと思っていた子、自分には関係ないと見過ごしていた子など、これまでの自分の体験と照らし合わせながら、周りの子のありようを考えさせる。

⑦ このクラスの中でのかずおくんの位置など想像させながら、どうしてほしいか考えたのかを考えさせる。

⑧ 互いにそのときの感情や思いを出し合い、受け止め合う中で、弱さを含めたありのままの自分を出せる場の糸口にしていきたい。すぐに出なければ、書かせて後日、読み合う